

もみ殻暗渠実証ほの設置と、「もみサブロー」実演会を開催しました

10月20日（木）に農業技術課とともに、佐久市三河田にもみ殻暗渠の実証ほを設置しました。

県では、地球温暖化対策として二酸化炭素の排出量を実質ゼロにする（ゼロカーボン）の取り組みを進めています。農業においても、CO₂やメタンガスなどの発生をできる限り削減することが求められています。さらに、農地は炭素を蓄える場として期待されています。

また、米価の下落に対応するために、水田転作を推進し、高収益作物の作付けも支援しています。

水田の多い佐久地域で、もみ殻を燃やすのではなく、有効活用する方法の一つとして、もみ殻暗渠による、排水性対策と炭素貯留の効果を確認するために実証ほを設置しました。

スガノ農機株式会社のもみサブローを株式会社Kubotaのトラクターでけん引することで施工し、地下10cm程度から約30cmにかけてもみ殻が帯状に入ること、暗渠としての効果を長持ちさせることができます。

今後は、たまねぎなどの作付けを行い、未施工ほ場と収量などの比較を計画しています。



もみ殻暗渠施工機「もみサブロー」



施工後の土壌断面